

令和7年度 研究計画

1 研究主題

自ら学ぼうとする児童生徒の育成

～各教員の主体的な研究（個別最適及び協働的な研究）を通して～

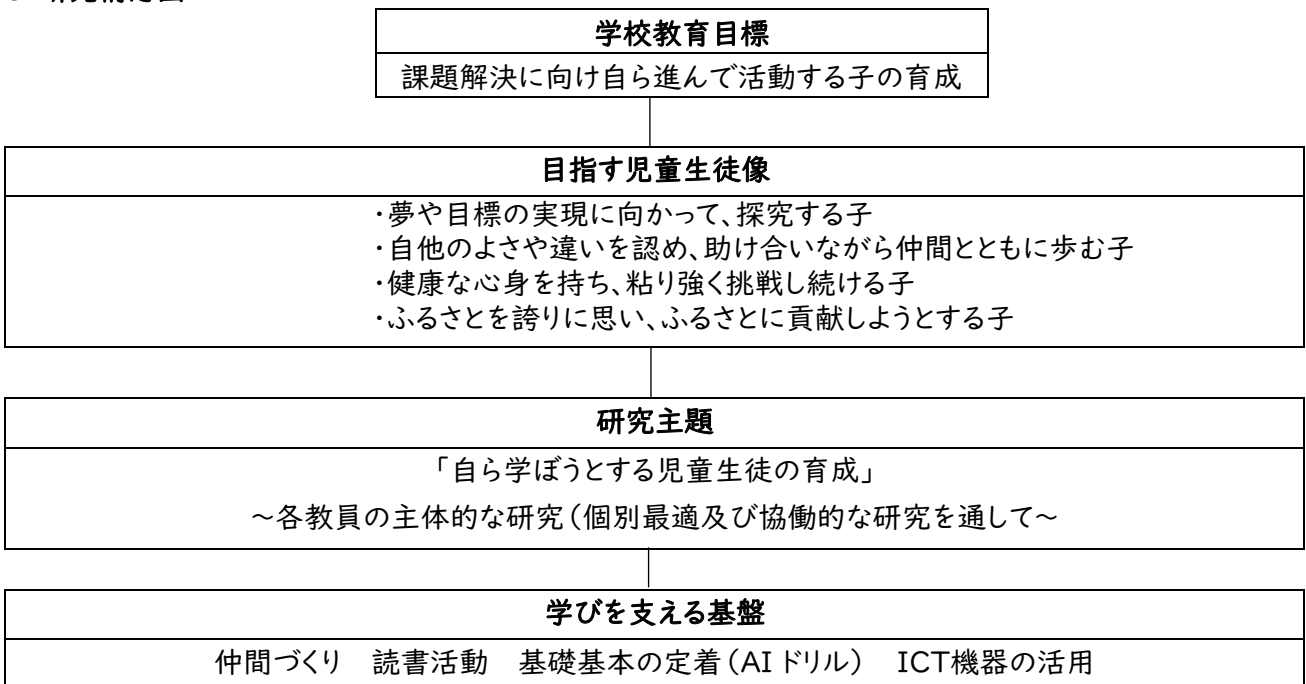
2 研究経過について

本校は、過疎地域の小中併設校である。そのため、本校の児童生徒は多様な人やものと触れ合う機会が少ない傾向にある。本校児童生徒の良い点は、素直な児童生徒の割合が高く、家庭的な雰囲気ですぐに接し合えることである。その一方で、家庭と学校との区別や小学校と中学校との区別が曖昧で、自分の考えに固執する、あるいは教員の支援を待ち、主体的に自分で課題を克服しようとする意識が低い児童生徒がいる。教員は様々で柔軟な対応が求められる。また、兄弟・姉妹が多いため、各学年間で連携し、小中学校全体で組織的に取り組むことも必要となる。

これらに対応するために、職員の同僚性を高め、個々の教員のよさを発揮した授業力を向上させることが重要であると考えた。そこで R5 年度から「各教員の主体的な研究（個別最適及び協働的な研究）」をサブテーマに研究を継続して進めてきた。具体的には、「県人権教育の手引き」にある人権教育の視点と「生徒指導提要」の視点を参考に、教員自身が研究したい内容についてアンケートを取り、それらを分類・整理し、「課題設定」「自己選択・自己決定の場の設定」「対話」の3つのグループに分かれて取り組んできた。

R6 年度末の活動に対するアンケートでは、「負担が少なく、学びが多かった」「取組みやすく、実りが多い研究だった」「1 年目『自己決定』、2 年目『課題解決』ときたので、来年度は『対話』でやってみたいと思う」など継続に前向きな回答が多かった。また、本年度当初の話し合いでも方向性を確認し、R7 年度を本研究の3年目のまとめとして、継続することとした。また、本年度は認知科学の視点も取り入れ、「学び」の本質的な部分について取り組んでいく。

3 研究構想図



4 研究体制

